

## 視察結果の概要

### 1. 文部科学省事務局による大阪府立西成高等学校視察（令和5年7月実施）

#### ●学校概要

- ・開校年：1974年に全日制普通科として開校、2015年に総合学科エンパワメントスクールに改編、その後、2024年からステップスクール
- ・生徒数：1学年150名程度
- ・学科等：総合学科・ステップスクール（就職や進学を見据え、基礎的な学習や体験的な学び等を可能とする）  
知的障がい生徒自立支援コースを設置

#### ●学校の特徴（学校からの説明概要）

- ・地域との連携も長年の蓄積がある。
- ・9時半始業にしており、その結果遅刻の生徒は減った。まず学校に対面で来てもらえるような指導を行い、丁寧に生徒一人一人に向き合っている。
- ・配慮を要する生徒として、障害者手帳を持っている生徒や、小中段階で支援学級に通っていた生徒、外国にルーツを持つ生徒、被虐待生徒・ヤングケアラーが在籍。
- ・アルバイトをしている生徒は、学年が進むにつれてその率が高くなる。22時までバイトをして、帰宅するような生徒は、朝が辛い傾向。アルバイト代については、生活費に充てている生徒も存在。
- ・1日1食しか食べていない生徒（学年それぞれ10%程度）も多い。
- ・「校内居場所カフェ」を2012年から開設し、中退予防を目的とした「予防支援」的な取り組みを行っている。
- ・高校での学習が自分の将来につながると思うという生徒の割合は高い傾向で、小中で不登校だった生徒が多いため、高校でのやり直しに対してモチベーションが高いことが想定される。
- ・家庭で学ぶことについては、電車の路線図が読めないなど、苦手な生徒が多い。家庭環境の格差により、小中での家庭学習や学習体験機会が少ないことが躓きの原因となっているので家庭学習に依存しないカリキュラムを実施。
- ・就職した生徒について、こまめに企業と連携し、定着支援を行っている。それが企業側の安心感にもつながっていると実感。

#### ●授業等見学内容

##### （1年生のモジュール授業（各30分の英・国・数））

- ・1年生の午前は30分×3のモジュール授業で英・国・数の基礎を固める。
- ・生徒の学力等に応じたクラス編成を行い、30分の授業が終了すると、都度生徒たちが教室を行き来する。

##### （となりカフェ、ステップルームなどでの支援）

- ・となりカフェは、月に5、6回開催し、ご飯や飲み物、お菓子を提供。1日1食という生徒も中にはいるので、貴重な場所になっている。ここでの様子から、生徒の置かれている家庭状況などを推察することもできるとのこと。特定の教員以外は入室せず、生徒が安心して話せる場所となっている。運営はNPO団体ドーナツトークが行い財源は教育庁予算となっている。
- ・ステップルームでは、アルバイトがなかなか決まらない生徒などに対して、キャリアカウンセラーが週2（火・金）で支援を実施している。1日5、6人の生徒を支援し、挨拶の練習など基本的なところから支援することで、キャリア形成につなげている。
- ・その他、軽度の知的障害を持っている生徒などに対して、就職に活かせるSST等の指導を行っている。

## 2. 高校WG委員による太平洋学園高等学校視察（令和6年2月実施）

### ●学校概要

- ・開校年：1946年に高知女子専門学園として開校、1966年高知女子高等学校開校、1993年校名を「太平洋学園高等学校・専門学校」に変更・男女共学化
- ・生徒数：1学年90名程度（定時制課程）、計260名程度（通信制課程・毎年100名程度募集）
- ・学科等：定時制・総合学科、通信制・総合学科（両課程それぞれ複数の系列を設定）

### ●学校の特徴（学校からの説明概要）

- ・定通併修により、定時制課程の生徒が通信制の科目を履修して3年で卒業することや、通信制の生徒が定時制の科目を履修することも可能（定時制と通信制の登校時間が被っていないことで可能）
- ・定時制から通信制や、通信制から定時制への転籍が可能
- ・部活動など通信制の生徒が定時制の生徒と交流する機会が充実
- ・アルバイトと学業を両立させて頑張っている生徒や、不登校経験のある生徒など、多様な生徒が在籍。そのため、個別的な支援を積極的に進めるための教員の増員や、教員間での支援方法の研究・実践などを行っている。
- ・キャリアカウンセラーの配置や、個別的な支援を必要とする生徒の就労支援を充実させるための就職支援コーディネーターの配置を実施。
- ・「福祉・医療・教育が連携してのサポート体制づくり」のためスクール・ソーシャルワーカーを常勤で配置。
- ・校舎の配色や、透明ガラスで各部屋を開放的で入りやすいようにするなど、施設の工夫を実施。
- ・「スクールアドバイザー」という仕組みで、生徒の方から話しやすい教員・職員を登録できる。登録された教員・職員はその生徒に声かけを行い、関係づくりをしていく。

### ●生徒との懇談における主な意見等

#### （学校の仕組み・環境について）

- ・生徒が安心できる環境がある。
- ・三者協議会など、生徒が参加できる会議体などがあり、皆で考えながら学校をつくっている印象
- ・自分の通っていた中学時代と比べて、ルールに縛られている感じが無い。時間に縛られない自由度もある。

#### （教員のサポートについて）

- ・中学時代よりも先生からサポートしてもらっている実感がある。すぐに先生に相談できる。
- ・カウンセラーの先生もいるなど、特性を持った生徒のことを理解できる先生がいる。
- ・発達障害があっても通いやすい雰囲気やサポートがある。
- ・相談したい先生の名前を書いて提出する仕組みがあるので、自分で相談したい先生を決められる。

#### （学校での学びについて）

- ・自ら添削課題をこなすことで計画性が身に付いたり、様々な活動から積極性や自分で行動する力などが身に付いたりしていると感じる。
- ・中学の勉強ができていない前提で教えてくれるので、基礎から学べるのがよい。逆に勉強ができる生徒には、プラスアルファの学習課題などもある。

#### （友人関係、学校生活について）

- ・それぞれ学校生活や友人関係などに困っていた経験があるため、互いに気遣っていると感じる。

#### （定時制と通信制の在り方関係）

- ・（定時制）午前中だけの授業であることで、身体も心もしんどくない。午後は自分の好きな活動にあてることができる。
- ・（通信制）部活などで定時制の生徒とも一緒に、友達との交流機会があって楽しい。
- ・（通信制）週一の登校以外は、アルバイトなど、自分の好きなことに時間を使えることがメリット。

### 3. 高校WG委員による高知県遠隔授業配信センター視察（令和6年2月実施）

#### ●施設概要

- ・開設年：平成27年度より高等学校課にて遠隔授業に関する研究を開始。令和元年度から中山間の小規模校やそれ以外の小規模校に、遠隔授業で使用する機器を整備し始め、令和2年度には教育センター内に「遠隔授業配信センター（高知県立岡豊高等学校教育センター分室）」を設置した。

#### ●センターの特色（担当者からの説明概要）

- ・高知県内の全ての小規模高校に対して、難関大学等へ進学する生徒のニーズに応じた授業や補習等を配信。
- ・配信対象校は18校（その中で希望のある学校）。教科としては数学、理科、英語、情報を配信。令和5年度は16校に配信。
- ・電子黒板、大型モニター、高画質カメラ、スピーカー、マイク、高性能PCなどを揃え、通常の授業に近い形での遠隔授業を実施。配信システム自体はシンプルで、教員が簡単に活用できる構成で構築。
- ・例えば数学Ⅱの遠隔授業配信では、電子黒板を用いて授業を展開。問題文についてはあらかじめ画面表示させ、それに手書きで書き加えていくことで、板書を効率化して授業を実施。

#### ●センター職員との意見交換

- ・配信教科については生徒の進学ニーズに沿って、ニーズの高い教科を配信している。また、情報Ⅰについては、専門的な教員を全校配置することは難しいことから配信を行っている。
- ・中学生に対して、体験入学の際に遠隔授業の体験をしてもらうなどの取組を行うことで、小規模校からも進学できるという考えが生徒・保護者の間に浸透してきている。
- ・配信センターと学校間の時程を合わせることについては、交通機関の都合などもあり難しい。少しずつ開始時間を合わせ、現在は3グループまでまとめることができた。
- ・遠隔の一層の活用に向けては、機器の維持コスト、配信側の機器・人員の整備が必要。また、生徒・保護者等に対しては、少人数指導による手厚さを基に理解を得ている状況。
- ・遠隔授業については、基本的に少人数指導を前提としている。生徒一人あたりに手厚い教科指導を行うことができている。

#### ●遠隔授業の受講生徒とのオンライン懇談における主な意見等

##### （少人数指導に関して）

- ・難しい内容についてはペースを落として詳しく教えてもらえるので、理解が深まる。
- ・復習を入れてもらえることで、理解が進む。逆に人数が増えたら、生徒の理解度がバラバラで、授業を聞いても理解できない生徒が出るのではないかと。
- ・少人数の遠隔授業で手厚く教えてもらえる教科が増えてほしい。今は限られた科目しか受けることができないので、他の科目も遠隔授業で受けることができるようにしてほしい。

##### （機器等の環境）

- ・同時帯に他の教室でも多くの生徒がインターネットに接続するなどにより、回線に負荷がかかると、音声聞き取りにくいことや映像がスムーズに動かない（コマ送りの状況になる）ことがある。

##### （対面との比較）

- ・実物を用いる授業については対面の方がいい。
- ・必修科目の情報Ⅰなどで、目の前に注意する人がいないと緊張感や刺激がなく、生徒によっては集中していない。
- ・受講生徒数が多い情報Ⅰの授業では、画面越しだと、分からない時にすぐに先生に聞くことが難しい。自分のいる教室の方にもサポートしてくれる先生にいてほしい。

##### （その他）

- ・オンラインで海外の授業を受けたり、外国人との交流ができたりするといい。グローバルな視点で学びたい。